

Slovenia Monthly *October 2019*



スロベニア マンスリー

発行：在スロベニア日本国大使館 発行日：2019年11月21日

～10月の主なポイント～

- 内政： スロベニア内外情報庁(SOVA)職員雇用を巡る疑惑
- 外政： パホル大統領の即位の礼出席
- 経済： 日本・スロベニア・ビジネスセミナーの開催
郵船ロジスティクス、コペル支店を開設
IMF、経済成長予測を下方修正
- 社会： オーストリア産肉スキャンダルによる食肉製品リコール

政治

【内政】

●スロベニア内外情報庁(SOVA)職員雇用を巡る疑惑【2日, 11日, 18日】

ニュースサイト「Požareport」は、シャレツ首相がカムニク市長時代に同市で働いていた女性がスロベニア内外情報庁(SOVA)に雇用された際に、シャレツ首相が同女性を雇用するようSOVAに圧力をかけた旨報じた。この報道を受け、2日、シャレツ首相はコメントし、同女性については昔から知っているが、しばらく会っていないとした上で、同女性がSOVAに雇用されたのは適切な手続に則って行われたものであると述べ、疑惑を否定した。また、同日にSOVAも声明を発表し、疑惑を否定した。

報道を受けて、国民議会インテリジェンス監査委員会は、SOVAによる雇用に関する情報開示を求めたが、SOVAは、議会同委員会の委員が同庁を訪問した直後に機密情報がメディアに漏れたことや、議会委員会はそのような監査を実施する権限を有していないことを理由に、情報開示を拒否した。11日、野党民主党(SDS)のヤンシャ党首は、SOVAによる情報開示の拒否を問題視し、コズメリSOVA長官の辞任を求めたが、同長官は辞任を拒否した。

18日、コズメリ長官は、週刊誌のインタビューにおいて、シャレツ首相及びSOVA元長官で現在シャレツ首相の補佐官を務めるチュルンチェツ氏との間で、問題となっている女性の雇用に関する話をしたことはない」と述べ、あらためて疑惑を否定した。

●ブラトウシェク・インフラ大臣、開発・戦略事業・結束大臣を兼任【3日】

本年9月に個人的な理由により辞任したプリッチ開発・戦略事業・結束大臣に替わり、しばらくの間、ブラトウシェク・インフラ大臣が開発・戦略事業・結束大臣を兼任することになった。これは、ブラトウシェク・インフラ大臣が党首を務めるアレンカ・ブラトウシェク同盟(SAB)が、プリッチ大臣の後任候補者を、本年秋に予定されている2020年及び21年の予算案の審議終了後に推薦することを決定したため、それまではブラトウシェク大臣が開発・戦略事業・結束大臣を兼任する。

●年金者党副党首が辞任、エリヤヴェツ党首を批判【7日】

スロベニア通信は、与党年金者党(DeSUS)のガンタル副党首が、本年9月に副党首を辞任していたと報じた。同通信の取材に対し、ガンタル氏は、年金者党

では副党首に明確な役割が与えられておらず、従って党の活動にも大きな影響を与えることができないと述べたほか、エリヤヴェツ党首による党を率いる姿勢が次第に民主的ではなくなってきたと批判した。なお、ガンタル氏は今後、自身の職業である医療の仕事に戻る予定であるが、年金者党の党員資格は維持する見込み。

【外政】

●パホル大統領、V4大統領会合に出席【3日】

3日、パホル大統領は、チェコで開催されたV4大統領会合に参加した。同会合は、V4諸国の大統領のほか、パホル大統領及びセルビアのプッチ大統領が参加して行われたもので、西バルカン諸国へのEU拡大について議論された。パホル大統領は、スロベニアは西バルカン諸国へのEU拡大を支持しており、拡大により安全保障を含む様々なリスクを軽減することができることと述べたほか、10月中旬の欧州理事会で北マケドニア及びアルバニアに対するEU加盟交渉開始という重要な決定が下されることを期待すると述べた。また、パホル大統領は、スロベニアとセルビアはコソボの独立に関して異なる見解を有しているが、スロベニアはセルビアのEU加盟を支持しており、セルビア・コソボ間の問題に関して、平和的な方法で解決策を見出す必要があると述べた。



(Photo: 大統領府)

●ベルギー首相のスロベニアを訪問【9日】

次期欧州理事会議長のみシェル・ベルギー首相が、スロベニアを訪問し、シャレツ首相と会談を行った。会談において、シャレツ首相は、みシェル次期欧州理事会議長に対して、シェンゲン圏拡大を含め、欧州理事会議長として法の支配を尊重することを期待すると述べたほか、両者は英国のEU離脱についても意見交換を行い、EUと英国の間で合意が達成されることへの期待感を表明した。両者は、2021年～27年のEU多年度財政枠組みについても意見交換を行い、シャレツ首相は、スロベニアはEUの課題に迅速に対処が可能で、その一方で結束基金や地域開発基金が削減されないようなバランスの取れた財政枠組みを

望んでいると述べ、財政枠組みに関するスロベニアの見方を説明した。その他、両者は西バルカン情勢についても意見交換を行い、シャレツ首相は、西バルカン諸国のEU加盟の重要性を強調し、北マケドニア及びアルバニアに対するEU加盟交渉開始の決定が下されることを望むと述べた。

●オランダ外相のスロベニア訪問【9日】

オランダのブロック外相がスロベニアを訪問し、ツェラル外相と会談を行った。ツェラル外相は、スロベニア・クロアチア間国境画定問題に関して、2017年にオランダ及びベネルクス諸国が、仲裁裁定は尊重され、履行されなければならないとのスロベニアの姿勢を支持したことに謝意を表明し、両国は多国間協調主義、法の支配という民主的価値を共有していると述べた。両外相は、新たにシェンゲン圏に加盟を希望する国は、国境管理を始めとする全ての条件を満たす必要があることで一致したほか、オランダはスロベニアの主要な貿易国のひとつであり両国の経済関係は良好である旨を確認した。また、両外相は西バルカン情勢についても意見交換を行い、ツェラル外相は、西バルカンのEU統合は、2021年後半のスロベニアのEU議長国任期の優先事項の一つであると述べ、スロベニアは北マケドニア及びアルバニアのEU加盟交渉開始を支持している旨述べた。

●シャレツ首相、北マケドニアを訪問【10日】

シャレツ首相は、北マケドニアを訪問し、ザエフ首相と会談を行った。両首相は、二国間関係は良好であり、あらゆるレベルにおいて政治的対話が行われている点に満足の意を表するとともに、一層の協力を促進させていくことで一致した。会談ではEU・NATO拡大についても議論され、シャレツ首相は、スロベニアは北マケドニアのEU及びNATO加盟を支持しており、10月中旬の欧州理事会で、北マケドニアのEU加盟交渉開始が決定されることを期待すると述べた。その他、両首相は、移民問題、安全保障、EU情勢等についても意見交換を行った。滞在中、シャレツ首相は、ジャフェリ議会議長とも会談を行ったほか、北マケドニアに進出しているスロベニア企業関係者とも意見交換を行った。

●政府、トルコに対しシリアの軍事作戦中止を呼びかけ【10日】

スロベニア外務省は、シリア北東部におけるトルコの軍事作戦停止を呼びかけるプレスリリースを発表した。同プレスリリースでは、シリア北東部におけるトルコの軍事作戦に強い懸念を表明し、軍事作戦は地域の安定及びテロ組織との闘いの成果を脅かすものであり、同時にシリア危機解決に向けた政治的プロセスを阻害するものであるとして、トルコに対し、一方的軍

事行動の中止，市民の保護，国際人道法の遵守を呼びかけた。

●シャレツ首相，北マケドニア及びアルバニアのEU加盟交渉開始先送りを批判【18日】

シャレツ首相は，17日～18日に開催された欧州理事会において，北マケドニア及びアルバニアに対するEU加盟交渉開始がEU加盟国首脳間で合意できなかったことについてコメントした。シャレツ首相は，「機会は逃され，EUの信頼性は揺らいでしまった。こうなると，これらの国（北マケドニア及びアルバニア）はもはやEUを信用しなくなるであろうし，我々もこれらの国を欧州への道に留めておくことができるかわからない」と述べるとともに，「スロベニアは，（両国の加盟交渉開始に賛成との）立場を極めて明確に伝えるとともに，他の多くの加盟国と同様に，加盟交渉開始が認められない場合にもたらされる事態についても警告してきた。今後どのようなことが起こるか注視する必要があるが，我々は決して楽観的ではない」と述べた。

●ツェラル外相，キプロスを訪問【18日】

ツェラル外相は，キプロスを訪問し，フリストドゥリデイス外相と会談を行った。ツェラル外相は，スロベニアとキプロスは欧州の小国であるが，法の支配，人権の尊重等のEUの基本的価値を積極的に提唱していると述べたほか，キプロスはEUの安定にとって重要な地域に近接しているが，スロベニアも将来的にEU加盟国となるべき西バルカンに近接しているとして，キプロスはスロベニアの重要なパートナーであると述べた。また，両者はEU及び国際場裡におけるグローバルな課題に関する中小国間の協力の重要性について意見交換を行った。また，滞在中，ツェラル外相は，シルリス・キプロス国会議長と会談し，EU，地中海，中東情勢に関する意見交換を行った。

●欧州委，クロアチアのシェンゲン加盟に肯定的評価：シャレツ首相の反応【22日】

22日，欧州委員会が，クロアチアはシェンゲン加盟国となるために必要な条件を満たしている旨の発表を行ったことを受けて，シャレツ首相は遺憾の意を表明した。シャレツ首相は，「シェンゲン加盟という重要な決定が，任期満了直前にある現在の欧州委員会により下されたことを遺憾に思う。本件は次期欧州委員会が扱うべきであった」と述べたほか，「欧州委員会の決定が政治的なものとなるのであれば，スロベニアも国益に基づき政治的に行動することになる。スロベニアは，クロアチアが技術的にも法的にもシェンゲン加盟に必要な全ての条件を満たすことを期待するが，これには法の支配の尊重も含まれる。本年，すでに1万2千人の不法移民がスロベニアに来ており，

クロアチアの技術的要件達成について若干の懸念がある」と述べた。

●シャレツ首相，ハンガリーを訪問【28日】

シャレツ首相はハンガリーを訪問し，オルバーン首相と会談を行った。首脳会談において，両首相は，良好な二国間経済関係を確認し，シャレツ首相は，2018年に両国間の貿易額が20億ユーロを超えたこと及びスロベニアを訪問するハンガリー人観光客が前年比24%増の約50万人に達したことを歓迎した。オルバーン首相は，コペル港についてスロベニアがハンガリーとの協力をとり止めたことに理解を示し，その代わりにトリエステ港の一部を購入したと述べた上で，今後スロベニアがコペル～ディヴァチャ間第2鉄道路線計画に関する方針を変更した場合，ハンガリーは協力を検討する余地があると述べた。また，両首相は，欧州理事会において北マケドニア及びアルバニアに対するEU加盟交渉開始の決定が下されなかったことに遺憾の意を表したほか，西バルカンの重要国であるセルビアとの加盟交渉継続の重要性についても強調した。その他，両首相は，両国におけるそれぞれの少数民族の状況，両国間国境のインフラ整備，難民・移民問題等についても意見交換を行った。



(Photo: Tamino Petelinšek/STA)

パホル大統領の即位の礼出席

10月22日、パホル大統領は、即位礼正殿の儀に出席しました。

スロベニア大統領府のプレスリリースでは、以下のとおり発表されています。

「徳仁天皇陛下の御即位は歴史的出来事であり、パホル大統領の出席は象徴的なものであるとともに、日本との関係を促進し、両国の政治的対話のレベルを一層引き上げるものである。徳仁天皇陛下は、約2500人の国内外からの来賓に対してお言葉を述べられ、また、安倍総理が寿詞を述べた。」



(photo: STA)

また、同日の夕刻、パホル大統領は饗宴の儀に参加した他、翌23日午前には、安倍総理大臣と会談を行い、その後、安倍総理夫妻主催の晩餐会に出席しました。



(photo: 内閣広報室)

安倍総理との会談では、冒頭、安倍総理から、パホル大統領の訪日を歓迎するとともに、「日・スロベ

ニア関係は要人往来が活発化し、経済関係も拡大する等、大変良好である」旨述べました。これに対し、パホル大統領から、「素晴らしい行事に参列でき、光栄である」旨述べました。また、二国間関係について、安倍総理から、「基本的価値と欧州の結束の重要性を共有するスロベニアは重要なパートナーである」、「IT・先端技術分野に強みを有し、欧州における物流の地理的優位性を持つスロベニアとともに、経済関係の更なる拡大に向けて協力したい」旨述べました。

これに対し、パホル大統領は「二国間関係は素晴らしいが拡大の余地がある。EU及びNATOの一員として政治・経済の両面、科学技術交流の拡大につき協力していきたい。また地元には溶け込む日本の企業風土を高く評価しており、日本からの投資の拡大を歓迎する」旨述べました。

さらに、両者は、2020年東京オリンピック・パラリンピック大会に向けた両国間の交流の拡大、西バルカン協力等について意見交換を行いました。

また、パホル大統領は、日本滞在中、筑波に所在する高エネルギー加速器研究機構(KEK)を訪問し、KEKの研究活動、スロベニアとKEKの長期にわたる協力関係等について意見交換を行いました。最後に、パホル大統領より、共同プロジェクトによる研究成果等を称えて、山内機構長にスロベニア国家功労勲章を授与する旨の発表がありました。



(photo: KEK)

今回のパホル大統領の訪日により、両国の友好関係がより一層発展することが期待されます。

日本・スロベニア・ビジネスセミナーの開催

3日～4日、当館は、JETRO、スロベニア経済開発・技術省、スロベニア投資庁(SPIRIT)、スロベニア商工会議所との共催の下、スロベニアのビジネス環境及びベストプラクティスの紹介、両国企業の交流の場の提供を通じた企業活動の促進を目的として、日本・スロベニア・ビジネスセミナーを開催しました。二日間を通じて、日本企業19社30名を含む約120名が参加しました。



(セミナーには多くの参加者が集まりました)

4日午前の部では、スロベニアのビジネス環境を紹介するプレゼンが行われ、昼食時には参加者間の交流を目的としたネットワーキングランチを実施しました。また、午後の部では、日本企業とスロベニア企業の間での商談会を実施しました。

開会の挨拶において、ポチヴァルシェク経済開発・技術大臣は、「スロベニアは、投資促進等の面において日本を戦略的優先市場として位置づけている。日本にとって、スロベニアはEUの中でも急速に成長し続ける経済として、またコペル港を通じて、EUという大市場へのアクセスが可能な玄関口として、魅力的な経済パートナー国であると確信している。今後の関係発展に期待する」と述べました。



(ポチヴァルシェク経済開発・技術大臣スピーチ)

吉田大使は、「この度、日本とスロベニアを繋ぐビジネスセミナーに皆様をお迎えでき光栄である。本日、欧州9か国11都市(ウィーン、デュッセルドルフ、プラハ、ベオグラード、ロンドン、グラーツ、ブダペスト、ブカレスト、ブラッセル、ジュネーブ、メレンシュヴァント)からの日本企業、そしてスロベニアに進出済みの日本企業が参加している。セクター別では、製造業、IT、貿易、ロジスティクス、エネルギー、金融、科学、旅行業の企業が参加している。主催者を代表して、皆様を歓迎したい。自分としては、スロベニアの優位性は戦略的立地及び高レベルの技術革新であると確信しており、本日のフォーラムが、更に新しい事業や協力に向けたきっかけとなることを期待する」と述べました。



(吉田大使スピーチ)

また、前日の3日には、日本企業のセミナー参加者はコペル港を視察し、コペル市概要及びコペル港の戦略的重要性に関する説明を受けたほか、送配電システム、工場運転等の効率化のための制御装置を生産開発する企業で、日立製作所ともNEDOスマートコミュニティ実証事業等で長年協力関係にあるスロベニア企業のRobotina社を視察しました。



(Robotina社視察)

経済

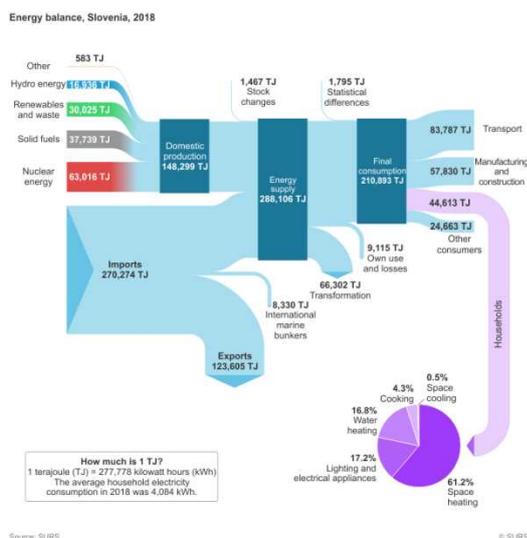
【経済一般、指標・統計】

●世界競争ランキング、スロベニアは35位【9日】

世界経済フォーラム(WEF)は、2019年世界競争ランキングを発表した。同ランキングでは評価対象12項目を基にポイントが算出され、スロベニアは70.2ポイントを獲得し、前年の69.6ポイントよりスコアは上昇したが、順位は前年と変動なく、対象141か国・地域中35位となった。なお、スロベニアは各項目別評価では、マクロ経済の安定性で同点1位、ビジネスのダイナミズムで26位、技術で26位、イノベーションで28位であったが、金融システムが61位、市場規模が82位であった。なお、全体のランキングは、シンガポールが1位、米国が2位、香港が3位、オランダが4位、スイスが5位で、日本は前年より1つ順位を下げた6位となった。

●スロベニアのエネルギー事情【10日】

統計局が発表したデータによると、2018年のスロベニア国内のエネルギー生産量は14万8000TJ(テラジュール)で、国内需要の52%を占めており、残りを輸入に頼っていることが明らかになった。国内エネルギー生産を発電方法別に見ると、原子力が42%で最もシェアが高く、水力を含む再生可能エネルギーが32%、石炭火力が25%で、0.5%がそれ以外の資源によるものとなっている。また、最終エネルギー消費構成比は、運輸部門の割合が40%で最も高く、製造・建設部門が27%、家庭部門が21%、農業及びその他の部門が12%となった。また、家庭部門のエネルギー消費では、暖房が61%、動力・照明と給湯がそれぞれ17%、厨房が4%、冷房が0.5%となっている。



(Photo: スロベニア統計局)

●IMF、経済成長予測を下方修正【15日】

IMFは、最新の経済成長予測を発表し、スロベニアの今年の経済成長予測をこれまでの3.4%から2.9%に下方修正した。なお、来年の経済成長については、2.9%と予測している。IMFは、本年のインフレ率を1.8%、来年は1.9%となることを予測しているほか、失業率については、本年の予測は4.5%で、2018年の5.1%から更に改善される見込みとなっている。

●FDI(残高)、5年連続で増加【23日】

スロベニア中央銀行の発表によると、2018年末時点におけるスロベニアのFDI(残高)は、152億ユーロで、前年末時点より5億3500万ユーロ増加したことが明らかとなった。また、インバウンド及びアウトバウンドFDIについても、5年連続で増加を記録した。スロベニアへの主な投資国は、オーストリア(36億ユーロ)、ルクセンブルグ(21億ユーロ)、スイス(16億ユーロ)、ドイツ(14億ユーロ)、イタリア(12億ユーロ)であり、スロベニアの主な投資先は、クロアチア(16億ユーロ)、セルビア(9億6300万ユーロ)、ボスニア・ヘルツェゴビナ(5億2500万ユーロ)、北マケドニア(3億8300万ユーロ)、ロシア(3億3570万ユーロ)となっている。

【アドリア航空破産】

●国民議会インフラ委員会、重要航空路線への政府補助金を可能とする法案を否決【10日】

アドリア航空破産を受け、重要航空路線に政府が補助金を交付することを可能とする政府提出の法案が、10日、国民議会インフラ委員会において賛成9票、反対10票で否決された。投票に際し、連立与党は賛成票を投じたが、野党及び政府に閣外協力を行う左派が反対票を投じた。投票前の審議において、ブラトゥシェク・インフラ大臣は、「法案は、外国航空会社が(リュブリャナと主要欧州都市との)重要路線を設置しなかった場合に、(重要路線維持のために)政府が補助金を交付する可能性を提供するためだけのものである。大臣として、補助金を出すようなことはしたくないが、もし(市場の判断により)重要路線が維持されない場合には、政府が補助金を出さざるを得ない」と述べた。また、補助金交付による国家予算に与える影響が同法案では試算されていないとの野党の指摘に対し、ブラトゥシェク大臣は「どの路線に対して補助金交付が必要かという点は、現時点ではわからないため、試算を行うことは不可能である」と述べた。

●各航空会社がリュブリャナ便を開通【28日】

28日、ルフトハンザ・シティラインはリュブリャナ～フランクフルト便を開通した。ルフトハンザのプレム中・東欧・南東欧営業部長は、アドリア航空破産は残

念な出来事であったが、今般、ルフトハンザの機体が初めてリュブリャナに降り立つことを誇りに思うと述べたほか、このような出来事は数ヶ月前には想像していなかったと述べた。なお、10月16日にはルフトハンザ傘下のスイス航空がリュブリャナ～チューリッヒ便を開通しているほか、ルフトハンザは11月1日にリュブリャナ～ミュンヘン便を、ブリュッセル航空は11月4日にリュブリャナ～ブリュッセル便を開通する予定となっている。



(Photo: Jure Bernard/STA)

【企業、産業の動向】

●製薬大手レク社、抗生物質生産拠点をスロベニアからオーストリアに移転を発表【1日】

スイスのノヴァルティス社傘下の製薬大手レク社は、今後2年間で、国内北部プレヴァリエの抗生物質生産拠点をオーストリアに移転する旨を発表した。レク社によると、今後、プレヴァリエは、インドのハイデラバードと共に、ノヴァルティス社のロジスティクス、サプライチェーン、品質等を管理・支援するグローバルセンターとなる予定。なお、レク社は本年9月に、ジェネリック医薬品市場における需要の低下等を理由に、プレヴァリエ工場での生産拡張計画を断念する旨を発表していた。

●製薬大手クルカ社、新たなR&Dセンターを開所【1日】

製薬大手クルカ社は、国内東部ノヴォ・メスト近郊に新たなR&Dセンターを開設した。新センターの名称はRKC4とされ、既存のR&Dセンターとも近接している。クルカ社によると、同センターへの投資額は5560万ユーロで、最新鋭の実験・解析用の機材を備えたセンターは、同社のR&D能力を大幅に向上させることが期待されている。シャレツ首相は、開所式において、クルカ社はスロベニアを代表する企業のひとつであると述べるとともに、同社の開発戦略、輸出への貢献、地域における役割等を賞賛した。

●マリボル・シェンティリ間鉄道路線新区間建設事業、スロベニア企業コンソーシアムが落札【8日】

政府は、マリボル～シェンティリ間鉄道路線新区間建設事業の入札において、スロベニア企業コンソーシ-

アムが落札した旨を発表した。同事業に関しては、トルコ企業及びオーストリア企業も応札していたが、最廉価を提示したスロベニア企業コンソーシアムが落札した。インフラ省によると、今後、契約を経て、工事開始は2020年初頭を予定しており、工事開始から30か月で完工する予定。同事業は、マリボル～シェンティリ間の鉄道路線更新プロジェクトの一部となっている。

●IKEAストア定礎式開催【17日】

17日、リュブリャナ市内のBTCショッピングセンター敷地内において家具大手IKEAストアの定礎式が行われ、正式に建設が開始された。同ストアは、31000㎡の敷地に建設され、完工までは約1年を予定している。式典に参加したヤンコビッチ・リュブリャナ市長は、IKEAの進出は、スロベニアが経済発展を遂げている証左であると述べた。また、BTCのメルマル会長は、IKEAの進出は約300名の新規雇用につながると述べ、また、今後、スロベニア国民はIKEAストアでの買い物のため近隣国に行く必要がなくなると述べた。

●ペトル社幹部の辞任【25日】

25日、ペトル社役員会メンバーは、一斉辞任を表明した。役員会によると、一斉辞任の理由は、監査理事会との間で会社の戦略に関する見解の不一致があったため、監査理事会からも同様の発表が行われた。一方、業績好調のペトル社の役員一斉辞任については、様々な憶測を呼び、各報道機関は、辞任の背景には政治的な圧力があつた、バルカン地域のエネルギー企業買収に関する債権発行について役員会と監査理事会の間で対立が生じた等と報じた。なお、シャレツ首相は、自身のツイッターにおいて、「(シャレツ首相が党首を務める)マリヤン・シャレツ・リスト(LMS)がペトル社役員会の辞任を求めたという情報は、大嘘である」と述べた。

●ゴレニェ社の再編【29日】

中国企業Hisense社傘下の家電大手ゴレニェ社(Gorenje)は、製造・販売を行う企業とマネジメントを行う企業の2社に分割する旨を発表した。ゴレニェの名前を維持する製造・販売部門は、ヴェレニェにおける製造拠点及びゴレニェ・グループの子会社が含まれ、ハイセンス・ヨーロッパはリュブリャナを本部として、欧州におけるハイセンス関連企業の法人サポートサービスを提供する予定。

郵船ロジスティクス・コペル支店開所式

10月11日、コペル市において、郵船ロジスティクスのコペル支店開所式が開催され、当館より吉田大使が参加しました。同式典には、コペル港湾会社、在欧州の日本企業関係者等約50名が参加しました。

吉田大使は、開所式でのスピーチにおいて、「郵船ロジスティクスが、今般コペル支店を開設することとなり喜ばしい。先週開催した日本・スロベニア・ビジネスセミナーにおいて、参加日本企業はコペル港を視察し、コペル港の優位性につき説明を受ける機会があった。この地域における日本企業の投資及びビジネスは増加しており、グローバル・ネットワークを有し、ロジスティクス分野におけるリーディングカンパニーである郵船ロジスティクスと日本企業を始めとする各企業が、コペル港の戦略的優位性を活用していくことを期待する」と述べました。



(吉田大使スピーチ)

その他、式典では、タナルキ郵船ロジスティクス・ハンガリー会社社長及びザデル・コペル港湾会社社長がスピーチを行ったほか、コペル港の優位性に関するプレゼンが行われました。また、式典参加者は、コペル港を視察したほか、式典の最後にはコペル支店開所を記念したテープカットが行われました。



(開所を記念したテープカットの様子)

社会・文化・スポーツ

●スロベニアとスウェーデンの研究者が革新的なアルミニウム電池のコンセプトを開発【4日】

スロベニアとスウェーデンの研究者チームは、アルミニウム電池の新たなコンセプトを開発した。同コンセプトでは、電池のエネルギー密度を倍加し、同時に現在使用されているものよりも入手が容易で良質の素材を使用することで、環境負荷を軽減することが可能になる。研究チームは、新たに開発されたコンセプトにより、電池の価格を大幅に引き下げ、環境負荷軽減が実現する可能性がある」と述べており、大規模な太陽光発電や風力発電における省エネ実現に向けて非常に興味深いものである旨述べた。なお、商品化は未だ先の話になるとしつつも、研究チームは、この新デバイスは、リチウムイオン電池と競争、もしくは補完できるものになるだろうと述べた。

●スロベニア人女性ボクサー、世界タイトル防衛に成功【7日】

スロベニアの女性ボクサー、エマ・コジン選手(Ema Kozin)が、リュブリャナのストジツェ・アリーナで行われた世界ボクシング連盟(WBF)の女子スーパーミドル級世界タイトル戦で、スウェーデンの挑戦者マリア・リンドバーグ選手(Maria Lindberg)に判定勝ちし、世界タイトル防衛に成功した。コジン選手は、勝利後のインタビューにおいて、「良い試合のためには2人のボクサーが必要である。試合は、均衡した内容であったため、スウェーデン選手は敗北に落胆していると思うが、今日の試合では自分の方が良い試合をしたと思っている」と述べた。



(Photo: Anže Malovrh/STA)

●男女平等指数、スロベニアはEU内で11位【15日】

欧州ジェンダー平等研究所(EIGE)は、EU加盟28か国のジェンダー平等指数を発表した。同指数は、労働、資金、知識、時間、パワー、健康の6分野の指数を基に試算されるもので、スロベニアはEU平均値を0.9ポイント上回る68.3ポイントで、EU内で11位との結果になった。なお、1位はスウェーデン(83.6ポイント)、2位はデンマーク(77.5ポイント)で、最

もポイントが低かったのはギリシャ(51.2ポイント),
その次がハンガリー(51.9ポイント)となっている。

●オーストリア産肉スキャンダルによる食肉製品リコール【29日】

スロベニアの食品加工会社9社は、必要な基準を満たしていないオーストリアの食肉処理場の肉がスロベニア市場に入った可能性があるとの食品安全局の警告を受け、製品をリコールした。ポセディ食品安全局長官は、リコールは予防措置に過ぎないが、当該食肉がスロベニア国内のサプライチェーンに入ったという確かな証拠はないと述べた。

スロベニア紀行

ドベルダン（スロベニア語で「こんにちは」）！

10月半ばにマウンテンランニングワールドカップ最終戦に参戦すべく、スロベニアを訪れてきました。この時期のスロベニアは冬の足音がもうすぐそこまで聞こえる冷え込みで、朝晩は吐く息も白く、日中でも日差しがなければ上着が手放せないほどです。



今回の渡航はいつもと違い、往路はミュンヘンから夜行列車「Nightjet」に乗って、リュブリャナへ入りました。今回は個室の寝台車両に乗車。目的地の異なるいくつかの車両を連結している状態でミュンヘン駅に入線。所定の号車に行くと、車両の入り口に車掌さんがいます。チケットを見せ、部屋の番号を確認し乗車。初めての寝台車両でワクワクします。廊下はキャストがギリギリ転がせるほどの幅で、そこを進み割り当てられた部屋に入ります。



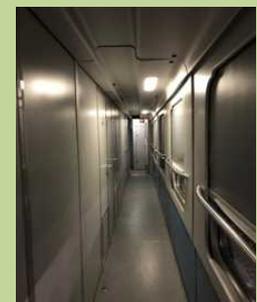
今回は個人で利用ですが、部屋の構造を見ると折り畳まれたベッドが壁にあり、梯子もしまっています。最大で3人乗れるようです。部屋には洗面台とコンセント。空調、明るさも調整できるのですが、それが見つけられずなかなか明かりを消すことができませんでした。明るくて寝付けないので部屋中を探し回って、やっと見つけた明かりのスイッチは3人使用時の一番上の人が届く位置、ドアの上にあります。まさかそんなところにスイッチがあるなんて考えもしなかったです。こういうちょっとしたことを含めて何事も経験ですね。



やっとのことで明かりを消し、寝台に横になる。折りたたみ式の寝台にシーツと掛布に枕。電車の揺れに合わせて自分が右へ左へ揺られていきます。窓はブラインドを下ろしていたので外の様子は見えませんが、その分、時々止まる駅での停車音、連結の切り離し、接続など音から色々な様子を想像することが出来ました。トイレは車両の端に2つ付いており、これも困ることはありませんでした。僕の乗っている車両はリュブリャナ止まりではなくさらにクロアチアまで行くので、寝過ぎすのが心配で少し前に起きて準備をしていたのですが、目的地のリュブリャナ駅へ着く20分ほど前、車掌さんがノックをして起こしに来てくれました。

予定より少し遅れて午前6時過ぎ、リュブリャナ駅へ無事に到着することが出来ました。今回は僕が不慣れなので落ち着いて休むことがあまり出来ませんでした。電車が好きであったり、旅程を有効に使いたい人にとってはとても便利な移動手段だと思います。電車旅行が好きな方は是非試してみてください。

それでは、また。



宮地藤雄（ミヤチフジオ）
2013～19 マウンテンランニング日本代表

スロベニア日本国大使館

電話: +386-1-200-8281 又は 8282, Fax: +386-1-251-1822, Email: info@s2.mofa.go.jp

Web: http://www.si.emb-japan.go.jp/website_jp/index_j.html

●本資料は、スロベニアに関心のある方であれば誰でも受け取ることができます。新たに配信を希望される方、あるいは今後配信を希望されない方は、以下のメールアドレスにご連絡ください。

info@s2.mofa.go.jp

★在スロベニア日本国大使館のフェイスブックもご覧ください！

スロベニアにおける日本の外交活動、文化行事のお知らせ等の情報を随時発信しております。

<https://www.facebook.com/Embassy.of.Japan.in.Slovenia>

★スロベニア人向けニュースレター「Living in Japan」のご紹介

当館では、毎月スロベニア人向けに日本紹介のニュースレター「Living in Japan (Življenje na Japonskem)」をスロベニア語で発信しています。今年は各都道府県に焦点を当てて、各地の歴史・産業・観光・物産品等を紹介してまいります。このニュースレターは当館のホームページでも公開しておりますので、どうぞご覧ください。

http://www.si.emb-japan.go.jp/Living_in_Japan.html

【領事班からのお知らせ】

●スロベニアに90日以上滞在される方は、在留届を提出してください。

(※インターネットでの提出が便利です。→ <http://www.ezairyu.mofa.go.jp/>)

●「たびレジ」をご利用ください！

「たびレジ」とは、海外に行かれる方が、旅行日程・滞在先・連絡先などを登録すると、滞在先の最新の海外安全情報や緊急事態発生時の連絡メール、また、いざという時の緊急連絡などが受け取れるシステムです。海外旅行や海外出張をされる方は、是非登録してご活用下さい。

●国境を越えて旅行する場合は、旅券を携行してください。

シェンゲン協定参加国間の移動では、空港や国境での出入国審査が廃止されているために、事実上日本人も旅券の審査なく他国へ入国できますが、旅券を携行していなかったことから罰金も科された事例もありますので、国境を越えて旅行する場合は、必ず旅券を携行して下さい。

●在外選挙制度アンケートについて

日頃より在外選挙にご理解、ご協力いただきありがとうございます。

総務省から、日本国外に住む方の選挙制度の向上に取り組むため、アンケートを実施したい旨の連絡がありました。つきましては、下記の URL からアンケートへのご協力をお願いします(所要時間は5分程度です)。

<https://r10.to/soumu-2019zaigai>

【広報文化班からのお知らせ】

●Makkon 2019 に出展します！

リュブリャナで毎年開催されているアニメフェスティバル Makkon に今年も出展します。今年アニメーション映画の上映も予定しておりますので、最新情報をお見逃しなく！

開催日: 12月7日(土)

開催場所: リュブリャナ大学, 化学・科学技術学部及びコンピュータ情報科学部キャンパス (Fakulteta za kemijo in kemijske tehnologije ter Fakulteta za računalništvo in informatiko)

住所: Večna pot 113, Ljubljana

●最新情報は、当館フェイスブックでチェック！

<https://www.facebook.com/Ambassy.of.Japan.in.Slovenia/>